

法 蔵 報恩講号 336号

御門徒各位様、公私共御自愛ご精励の段、心よりお喜び申し上げます。今年も、お盆が過ぎ報恩講の季節がやってまいりました。何かとご多用とは存じ上げますが、真宗門徒にとつて一番大切な法要である報恩講に、ご家族、お友だちをお誘いの上お越しくくださいますよう御案内申し上げます。

二〇二〇年（令和二年）度 報恩講 日程

○ 九月十二日（土） 午後六時より

大速夜勤行・法話（一席）

○ 九月十三日（日） 午前七時三十分より

晨朝勤行・法話（一席）

午前十時三十分より

御満座勤行・法話（一席）

布教使 畠山明光師（湧別町 真宗寺）

二〇二〇年（令和二年）度 順信寺報恩講執行委員長 山川健治

順信寺住職 禿 覚英

○今年の報恩講は新型コロナウイルス感染症対策のため十二日午後六時より大速夜のお参りを行い、献灯献花式は中止させていただきます。また十三日の御満座の後のお齋（昼食）はお弁当にしてお持ち帰りしていただく予定です。例年とは日程が異なっておりますので、ご注意ください。お参りくださいますようお願い申し上げます。

布教使の畠山明光師には病氣療養の中お越しくさせていただきます。是非ともお越しただき、そのお姿を見て、仏法聴聞していただきたくお願い申し上げます。今年も、順信寺がこの地に立っている指名を果たして参りたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

▼「・・・私は一月三十日に癌の手術を受けました。癌は嫌ですが死すべきいのちが今あるということを楽しんでいます。死すべきいのちは日常でのあたりまえなことが不思議と喜べるのです。先祖がいた、親がいた、妻がいた、子どもがいた。知人友人がいた、酒が美味しい、大小便ができる、その一つ一つが不思議な喜びなのです。何もできなくなったらその中でできることをしようと思っています。

今、この身もいのちもありますが、この身、このいのちを支えている無量寿（阿弥陀）にまかせる。まかせるとは無量寿（阿弥陀）に私のいのちを捨てていけるいのちの誕生を感じているのです。

釈尊は死ぬ（涅槃（ねはん））の三か月前に「捨命住寿」と語られたといひます。私は今、亡き檀信徒の人々を縁として、また、今生きている檀信徒の人々と共に「捨命住寿」を味わってみたいと思っております。捨てて（死）生きられる「寿（いのち）」がこの私のいのちに誕生し、全ての縁と時の中で不思議にも今あることに目覚めさせられ、その阿弥陀の寿（いのち）にゆだねまかせていける念仏が嬉しいのです。・・・」

（湧別町真宗寺 真宗寺第四住職 畠山明光師

「春のお彼岸会・春の永代経法要」案内 特別版」より）

▼「・・・この任期中にアウシュビュッツを訪れる機会があった。入った者は九十九パーセント生きて出られないという、ナチスドイツが行った大量虐殺の現場である。詳細は割愛するが衝撃を受けて帰ってきた。

帰国後に湧別の前住職に会ったとき「アウシュビュッツに行ったらしいな。解ったか、人は夢を見たら死んでしまうんだ。生き残ったものは、生きていける今を喜んだ者だけなんだ。シベリア抑留も一緒だぞ」と言われた。その通りで、極限の状況で「これが終われば帰れるのではないか」「明日は苦しみが終わるのではないか」という夢を見たものは、すべて夢が破れていくので生

きる気力が無くなり死んでしまう。

そこに気が付いたときに、浄土に触れる人はどうなっていくかを教えらる。念仏の道を歩み続けたら先に光り輝く浄土があるのではなく、念仏申す中で浄土に触れると今が輝きだす、ということだろう。

実際、シベリヤでは浄土の教えを聞いた日本人の中にはこの感覚だった人もいただろう。これはアウシュビッツという問題を考えたときに、浄土が明らかになっていったということである。・・・」

(広徳寺 江隅智「懺悔の思念 三年間の学びを通して」より)

へご連絡

*今年の炊事は新型コロナウイルス感染対策上、仏青の奥さんたち等、数人にお願いたしまして、行わさせていただきました。御理解御協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

*お世話委員さんを通して、報恩講の御懇志を、お願ひ申し上げます。何卒よろしく、お願ひ申し上げます。

*8月5日午後一時より、おみがきものをしていただきました。誠に有り難うございました。参加してくださったのは次の方々です。(順不同)

大和幸子さん、山本多美子さん、山川幸子さん、黒田キヨ子さん、鳥羽澄子さ

ん、野口恵美子さん、西野寿子さん、木村富美子さん、駒形直美さん、鳥羽米

子さん、西沢恵津子さん、吉田道子さん、村田妙子さん、岡部節子さん、禿優

子、禿和枝。来年もまたよろしくお願ひいたします。

ピカピカのお内陣でお盆を迎えさせて頂きました。また、報恩講を迎えさせていただけます。

*今年のお盆はいかがでしたか？コロナ禍の中、ささやかな人間の喜びを大切にしたいと思えます。

「どうにもならなん というものが

人間には 大事なのです。

それだけが 「我」を破っていくのです。」

【その他 順信寺の予定】

◎9月3日午前8時30分頃より、報恩講を迎えるにあたりまして大掃除を行いたいと思えます。ご奉仕よろしくお願ひ申し上げます。

・九月二十二日(火) 午後一時より 秋彼岸法要

(お彼岸は九月十九日から二十五日までです。今年はお彼岸の中日にお参りさせていただきます。)

・九月二十八日(月) 午後一時より 親鸞聖人御命日のお参り

・十月十二日(月) 午後0時より 定例法話会

布教使さんは、和寒町顕正寺の高岡純孝師です。最初にお参りをして、その後住職特製の美味しいカレーライスを食べ、一時頃より、法話を2時半ころまで、聞きます。コロナ禍の中感染に注意して行つて参りたいと思つています。どうぞ、皆様お誘い合わせの上お越しください。途中から参加されてもかまいません。お待ち致しております。

・十月二十八日(水) 午後一時より 親鸞聖人ご命日のお参り

*9月、10月は他のお寺の報恩講に若院が出かけることになると思えます。お参りには住職が伺うことになると思えますので、よろしくお願ひいたします。

*順信寺にある本は、どうぞお持ちになつてお読みください。いつでもお申し出ください。

忠峰コーナー

「コスモスの 一輪咲いて 秋の風」

「原爆忌 朝風暑く 手を合わす」